

練馬区 資源循環センター

OPEN

循環型社会をめざして



練馬区資源循環センター
所在地 練馬区谷原一丁目2番20号
平成22年11月1日(月)オープン

資源循環センターのオープン

本年11月、資源循環施策の充実を図るため、練馬区資源循環センターを開設しました。
この施設は、粗大ごみの日曜日回収と持ち込み受付を行い、また、新たに粗大ごみの再利用事業として、再利用が可能な粗大ごみに簡易な修理等を施し、区内三か所のリサイクルセンターで販売します。さらに、清掃・リサイクルに関する窓口業務や相談業務を行うとともに、家庭や区立施設から出る使用済みの食用油の資源化にも取り組みます。



練馬区議会議員 第五十九代議長

関口 かずお



- 常任委員会 健康福祉委員会 委員
- 特別委員会 総合計画等 特別委員会 委員
- 各種委員会 民生委員推薦会
美術館運営協議会

ご相談は… 関口かずお 事務所
〒176-0021 練馬区貫井 3-53-8
Tel / Fax : 3998-1752

平成22年 第三回定例会 一般質問

昨今の国政の動向について

Q1 菅総理の消費増税論議の問題提起について感想も含め所見を。

A1 (区長) 国は、一方的な押し付けでなく、地方団体との十分な協議を行い、しっかりとしたゆるぎのない国家ビジョンを国民の理解のもとに早急に示されることを期待します。また、消費税については、国民生活に大きな影響を与えるテーマであるので、議論を提起すべき時期や検討方法などについて、慎重な判断が求められる。

経済情勢と景気対策について

Q1 区内経済活性化に向けた対応と、補正予算における「景気対策」の考え方を。

A1 区内中小企業の状況をみると、未だに厳しい状況にあり、更なる区内経済の活性化が必要と考える。また、補正予算については、建築・土木工事等の景気対策工事や緊急雇用創出事業臨時特別交付金を活用した事業、プレミアム付区内共通商品券の発行に要する経費の計上を考えている。

平成二十一年度決算について

Q1 経常収支比率の悪化で、財政の弾力性が懸念されるが、今回の決算についての認識と所見を。
A1 (区長) 一般財源が減収になる一方で、扶助費や物件費が増加し、経常収支比率が悪化するなど、本区の財政運営は予断を許さない状況にあると認識している。

財政運営について

Q1 財源交付金の見込と、財源協議対応の所見を。

A1 (区長) 基準財政需要額や基準財政収入額が下回った数値となっており、持続可能な財政運営の観点からは、憂慮すべき事態であるが引き続き更なる交付金の確保に努める。
Q1 都は、需要の見直しを求めているが認識を。
A1 (区長) 市町村住民税法人分の減収対策が大きなテーマの一つと考え、区市町村振興基金の赤字債としての活用や、減収補てん債の直接発行などの一般の市町村が採りうるのと同様な対策を講じる必要があると考える。

財政運営について

Q1 財政運営については、施設整備基金やまちづくり基金をさらに積極的に活用する考えと、適正な公債比率を維持し対応すべきと考えを。
A1 (区長) 基金と起債の発行については、持続可能な財政基盤の構築に努めるとともに、投資的経費については、基金と起債の活用を念頭に置いて財政運営に当たる。



子ども放課後児童の施策について

Q1 子ども放課後児童の施策について、第二次練馬区放課後子どもプランの中でも子どもの立場に立った居場所づくりなど事業の充実を図る。また、子ども施策に係る組織のあり方について、限りある人的資源と組織を子ども分野の施策に合わせ引き続き検討する。さらに、放課後児童に係る施策のあり方について、ねりまキッズ安心メール事業について、今後とも事業効果を適切に把握するとともに保護者に事業の周知を図る。また、ねりまキッズ安心メール事業の小学生のすべてが利用できるようにすることについては、対象の小学校生の課題の把握に努め、関係者との意見交換も踏まえ、環境の整備に努める。
Q1 子ども施策に係る組織のあり方は。
A1 放課後児童施策に関する組織の改革について、学童クラブ、学校応援団ひろば、学校開放の3事業の一元化は、さらに検討を進める。